



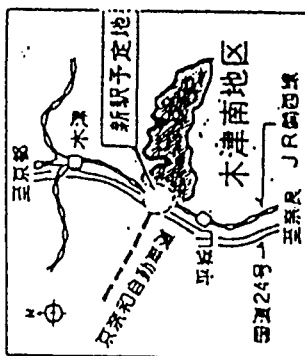
木津—平城山駅間に新駅

木津南地区の玄関口に 木津町長明が表明

マルチモーダルとは、鉄道とバスなど複数の交通機関を組み合わせて効率的な交通体系の実現を目指す計画。西省と国土庁が一昨年九月に推進協議会を設立して、全国にモデル地区を指定している。

同町によると、木津—平城山駅間が候補地になっているのは、JR関西線と並行して国道24号が走っているうえ、京奈和自動車道のインターチェンジにも近く、鉄道とバスを組み合わせた通勤ルートが実現できるため。新駅は、平城山駅北約一・5kmの木津南地区内に設置される予定という。

木津南地区は今年春から住宅への入居が始まり、将来的には約一万八千六百人の人口を想定している。



木津町の戸田敏彦町長は六日の会見で、JR関西線の木津—平城山駅間に関西文化学術研究都市木津南地区の玄関口となる新駅が設置されることを明らかにした。運輸省や建設省が効率的な交通体系を目指して進めている「マルチモーダル計画」のモデル地区に新駅周辺が選ばれる見通しになったもので、新年度にも関係機関による検討委員会が発足するという。

新年度にも検討委発足

しかし、木津、平城山両駅に出るのが不便で、大阪へ通勤するにはいったん近鉄奈良駅までバスで行かなければならない。新駅ができれば、大阪・難波に十五分ほどで行くことが可能で、同地区の発展に寄与し

そうだ。

木津町は、昨年度から木津—平城山駅間など町内三カ所に新駅を整備するための調査を独自にスタートさせていた。新駅の設置時期などは今後、関係機関の間で検討されるという。